発行所
株式会社 中外日報社
©中外日報社2025
京都本社　〒601－8004
京都市南区東九条東山王町9
電話　(075)671－3211(代)
FAX　(075)671－2140
東京支社　〒113－0033
東京都文京区本郷4－9－13
電話　(03)3816－4721(代)
FAX　(03)3811－5222
https://www.chugainippoh.co.jp
Eメールhenshu@chugainippoh.co.jp

中外日報

購読料　一月三、六月七〇〇円　一年二〇〇〇円　四月二、四月二〇〇〇円

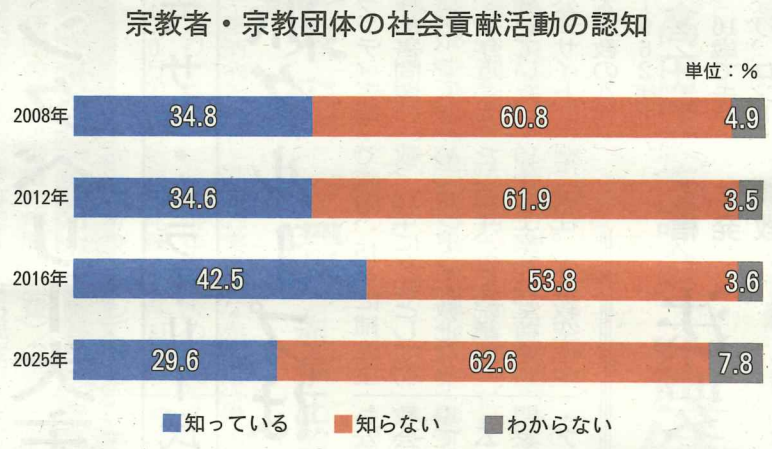
仏画　日本画　眞筆
掛軸企画製作表具　京表具修復洗い
京都美術工藝織
苑壽株式会社
〒612-8213 京都市伏見区東浜南町667-1 電話(075)622-2623
〒335-0013 埼玉県戸田市喜沢2-8の45 電話(0484)41-2950
岩間赫子

宗教団体の社会貢献活動調査

認知度、前回より低く

「知らない」6割超す

庭野財団



注：公益財団法人庭野平和財団　第4回「宗教団体の社会貢献活動に関する調査」を基に作成

庭野平和財団は、第4回「宗教団体の社会貢献活動に関する調査」を9年ぶりに行い、宗教団体に対する認知度や評価、期待度を調べた。宗教団体の多くが教育や平和、災害支援などの分野で宗教活動と別の「社会貢献活動」をしているが、社会での認知度は低下していることが分かった。一方で災害や子育てなど、生活に直結する分野では相対的に高かった。（磯部五月）

庭野浩士理事長と調査を監修した寺田喜朗・大正大文学部教授、丹羽宣子・立教大コミュニティ福祉学部助教が9月26日に京都市内で記者発表を行った。今回の調査は一般社団法人「中央調査社」に委託。対象は全国の20歳以上の男女4千人で「層化3段抽出法」を用いた。有効回答数は1184人（29・6%）。第1回は2008年で、回答者の割合は若い年代が減少する一方、今回は70歳以上が330人と全体の3割を超えた。

宗教者・宗教団体の社会貢献活動についての認知度は「知らない」が62・6%で、前回の16年から8・8ポイント増加。活動の評価は「たいへん立派な活動でもっと活発に行ってほしい」が16年は23・9%だったが、今回は15・6%に下がった。災害時に宗教者・宗教団体が支援活動を行っていることについては「ひとつも知らない・わからない」が前回より14・2ポイント増加し68・7%と認知度の低下が明らかになった。

寺田教授は「宗教は平時には報道されないが事件があったときのみ注目が集まる」と前置きし、パレスチナのガザでの惨状など現在進行形の戦争に宗教が無関係ではないことや、旧統一教会に関する報道も宗教の捉え方に影響しているとした。

庭野理事長は「内部からは『人に認めてもらいたくて社会貢献活動をしているわけではない』との声もあり、活動の周知は難しい」と話した。

今回新設した「知っている宗教団体の社会貢献活動」に対する回答の設問「在留外国人の生活支援や交流活動」は5・1%と低く、現代人が他者にまで目が向いていない傾向がうかがえる。

丹羽助教は教育、福祉、災害時のボランティア活動の分野で直接の受益者である30代の期待度が高かったと説明した。

回答の地域間の差や世代間の差についてはさらに分析が必要になる。調査の詳細は年度内に発表する予定だ。

調査結果について説明する（右から）庭野理事長、寺田教授、丹羽助教

「生死脈々」仏教発信

万博に一日限定寺院

超宗派有志ら

大阪市此花区夢洲で開催中の大阪・関西万博の会場に9月26日、「万博寺」と題した一日限りの寺院が建立された。全国から集まった超宗派の若手僧侶有志約250人でつくる万博寺結縁奉賛会が企画した「仏教のポップアップ空間」で「生死（しょうじ）脈々」をキャッチコピーに終日、仏教の教えや魅力を伝える各種プログラムが展開された。

万博の理念は「いのち輝く未来社会のデザイン」だが、万博寺の建立はいのちを考える上で『死をどう受け止めるか』という問いを置き去りにしてはならない」との問題意識をもとに、仏教の立場から「いのちは終わる存在だからこそ、今が尊い」とのメッセージを伝えたいと発願された。生死脈々は万博の公式キャラクター「ミャクミャク」にちなむ。

寺は会場東部のポップアップステージ東内に建立され、イラストレーターの中川学・浄土宗西山禅林寺派瑞泉寺住職が特別に制作した仏画を本尊にした設え。

午前11時に開山し▽テクノ法要・仏教音楽ライブ▽漫才説法ライブ▽生前葬セレモニー▽雅楽パフォーマンス▽全日本仏教青年会による各宗派の儀式儀礼「命告（いのりの）り」▽オリジナル御朱印の配布▽オリジナル腕輪念珠づくり体験▽オリジナルスタンプコーナー――などが午後8時頃まで行われ、奉賛会によると御朱印600枚以上、千人以上にスタンプが配布・押印され、延べ約3千人が参拝した。

参拝者（来場者）約30人に話を聞いたところ、大半は雅楽や声明の音に自然に引かれて足を止めた人だったが、菩提寺の紹介で訪れた人や新聞・SNSの情報で関心を持った人も見られた。

テクノ法要や漫才説法など仏教に対する従来のイメージとは異なる趣向に驚く一方、おおむね好意的な反応で「テクノ法要はかっこいい。熱いものを感じた。新しい布教の形だ」（千葉市の40歳女性）「最初は耳慣れない音楽と思ったが、（歌詞の）お経はところどころ知っているので一緒に口ずさむことができて最後はありがたく思った」（大分県玖珠町の73歳の浄土真宗本願寺派女性門徒）などの感想が聞かれた。

義理のおいが僧侶だという大阪市住吉区の一般男性(67)は「寺離れが進む中、特に若手僧侶が様々な新しい取り組みをしていかねばならない」と期待した。

感慨深く感想を語る人が多い印象があったのが生前葬セレモニーで、大阪市生野区の融通念仏宗の檀家女性(49)は「これまで死についてあまり考えたことがなかったが、気持ちの整理がついてよかった」とし、大阪府高槻市の一般女性(78)は「いろんな人との別れがオーバーラップした。私は喪主を務めたことがあり、生前葬にも興味があった。私自身は死んだ後のお葬式でよいが、何らかのお別れの儀式は絶対に必要」と強調した。

堺市北区の女性(60)は「たまたま通りがかったが、生前葬の施主の方が語るこれまでの人生のご苦労や生前に戒名をもらう意味を聞いてなるほどと思った。死を考えることで『生きている』ことを意識させられた。日本の国力の低下が指摘されているが、日本もまだまだ捨てたもんじゃない。日本にはもともと持っている力があるのだと思う」と語った。

このほか「ミャクミャク御朱印帳」が大ヒットした早和製本（京都市南区）御朱印帳担当取締役の津岡正男氏(60)は「オリジナル御朱印を求めにきた方の中にはミャクミャク御朱印帳をお持ちの方も少なくなく、いろいろなつながりを実感した。感謝したい」と喜んだ。

（2面につづく）

各宗派の僧侶が参加し営まれた「超宗派万博寺法要」

寺社の土地活用
ザ・貸地
名古屋　京都　東京
0800-100-4100　株式会社ブルーボックス
愛知県稲沢市正明寺二丁目16番4号

きょうの紙面から

▶ 英国聖公会に初の女性カンタベリー大主教　＝2面
▶ 高田派、来年度に義納金値上げ　＝3面
▶ 醍醐派、機関誌をデジタル移行　＝4面
▶ お寺の空間活用、障がい者支援　＝5面
▶〈論〉室井美千博氏「三木清　没後80年に寄せて」　＝8面
▶〈次代を担う〉全日本仏教青年会の来馬司龍理事長　＝12面
◆〈ほっとインタビュー〉は休みます

中外日報購読のお申し込みは、フリーダイヤル0120―015―177へ